

平成30年7月24日  
西部農林振興センター益田事務所農業普及部

<b>標 題</b>	集落放牧現地実践研修会を開催 「聞いて・見て・お試しを！」
------------	-------------------------------

(ダイジェスト)

農地活用をはじめ様々な効果が期待されている集落放牧の取り組みを、管内においてさらに拡大するため、実践地区を会場に現地実践研修会を開催しました。

集落放牧のメリット、日々の管理などを話題に、実践例から学ぶよい機会になりました。

島根県では、米政策の見直しに対応し、今後の水田利用の手法の一つとして水田放牧を推進しています。休耕田や山際を放牧利用することで、地区内の景観保全や獣害対策（緩衝帯設置）も期待されます。

そこで、管内での取り組み事例を通じて集落放牧に係る見識を深めるため、7月13日に現地実践研修会を開催しました。

当日は、管内の畜産関係者のほか、農業委員会関係者の出席もあり、お試し放牧に関する活発な意見が交換されました。

普及部としては、今後も、県中山間地域研究センターによる放牧実践支援事業や、管内畜産農家による放牧貸出牛などの仕組みを活用し、推進することとしています。

＝参考：放牧事例報告者によるコメント＝

- ・クズが生い茂り、複数人で数日要していた草刈りが、今は放牧終了後の掃除刈り程度で大変楽になった。
- ・牛飼い経験者は皆無だが、集落内のメンバー7人で、週替わりに日々の給餌や観察を担当。月1回の周囲見回りはメンバーで揃って。
- ・放牧を始めてから隣接する水田へのイノシシの侵入が無くなった。

